



新潟県

教育月報 2月号

第862号
令和4年2月1日発行
編集人、発行人
新潟県教育委員会

<今月号の記事>

		対象校種
1 : 教育ニュースライン P 1	全種
2 : 幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続をめざして P 2 ~ 4	幼小
3 : スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 事業 P 5	中高
4 : オンラインを活用した研修方法の工夫について P 6 ~ 7	高校
5 : インフォメーション P 8	全種

教育ニュースライン

県教育に関する最新ニュースをお知らせします。

「いきいきわくわく科学賞2021」の表彰式が行われました

「いきいきわくわく科学賞2021 第57回新潟県児童生徒科学研究発表会」(新潟日報社主催、県教育委員会・新潟市教育委員会共催)が、新潟県地区理科教育センター連絡協議会と新潟市総合教育センターの協力のもと開催され、令和3年12月18日(土)に新潟日報メディアシップにおいて表彰式が行われました。

今年度は、各市町村等で行われる科学研究発表会に小・中学生から1148作品の応募があり、3回の審査を経た上位44作品に各賞が授与されました。

表彰後、新潟県知事賞の受賞者から研究概要の発表がありました。身の回りの自然や出来事への疑問や興味を出発点に、仮説、実験、考察の「探究」の過程を経ており、価値のある内容でした。

【新潟県知事賞受賞作品の研究テーマ】

- ・スナガニの巣の謎
- ・ネナシカズラの戦略
- ・箱の空け口に刻まれたギザギザの不思議
- ・「逃げ水」を捕まえろ

今年のバッジデザイン
「コブダイ」



GLOBALG. A. P. 認証を取得した村上桜ヶ丘高校の生徒が花角知事を表敬訪問しました

県内の総合高校では初めてとなる米のGLOBALG. A. P. 認証を取得した村上桜ヶ丘高等学校農業森林系列作物専攻の生徒3名が、令和4年1月21日(金)に花角知事を表敬訪問し、認証取得に向けた取組や今後の目標等を報告しました。



【表敬訪問の様子】

※GLOBALG. A. P. について

GAP (Good Agricultural Practice) は、農業における食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理であり、GLOBALG. A. P. は世界基準のGAP認証制度です。

幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続をめざして

義務教育課

はじめに

小学校学習指導要領総則には、小学校入学当初の「学校段階等間の接続」として、幼児期に育まれてきたことが各教科等における学習に円滑に接続されるよう生活科を中心に合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うことが明記されています。各小学校においては、入学した児童が、幼児期の教育における遊びや生活をとおした学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにするためのスタートカリキュラムの充実が求められています。

～妙高高原地区の園・小の取組～

1 12年間で身に付けていく資質・能力

妙高高原こども園で過ごした園児が、妙高高原北・妙高高原南の2小学校に入学し、妙

高高原中学校へ進学します。互いに連携・協働しながら、明確な見通しをもって様々な取組を推進するよう「園・小中学校連絡協議会（以下、協議会）」を設置し、12年間で身に付けていく資質・能力（表1）を位置付け、共有しています。

2 園・小をつなぐ取組

（妙高高原北小学校の実践）

(1) 園・小アプローチ・スタートカリキュラム

協議会が作成した「園・小アプローチ・スタートカリキュラム」（表2）には、次の3点が明記されています。

- ①各期における幼児・児童の発達の姿
- ②資質・能力を意識した活動例
- ③園・小の交流活動と連携

表1 12年間で身に付けていく資質・能力

	学力向上	心づくり	健康づくり
	◎自ら人・物・事柄に働き掛け、主体的に学ぶ子供	◎自己表現力やコミュニケーション力を身に付け相手と上手に関わる子供 ◎いじめをしない、させない、許さない子供	◎健康習慣を身に付け、遊びや運動、スポーツに進んで取り組む子供
こども園	○工夫したり、試したりしながら学ぶ。	○友達を思いやる優しさと、自分の気持ちに折り合いが付けられるようになる。	○自然の中で思い切り体を動かして遊ぶ。
下学年	○新しい発見や驚きを見付けながら、楽しく学ぶ。	○相手を思いやり、励まし合う人間関係をつくる。	○よりよい健康習慣が分かり、様々な遊びや運動を楽しむ。
上学年	○仲間と考えを出し合って、学びを深める。 ○学習したことを確実に身に付ける。	○互いを認め合い、学び合う関係を身に付ける。 ○自己存在感をもちながら、仲間と共に成長する。	○健康習慣の課題からめあてを設定し、達成に向けて努力する。 ○様々な運動やスポーツに進んで取り組む。
中学校	○自らの将来を見通し、意欲的に学習に取り組む。	○自己表現力やコミュニケーション力を身に付ける。 ○互いのよさや違いを認め合い、自己有用感のある集団づくりをする。	○よりよい健康習慣を継続し、日常生活に生かす。 ○体力を高める必要性を理解し、自分の理想の姿に向けて努力する。

表2 園・小アプローチャ・スタートカードカリキュラム

月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
行事	名香山苑訪問 お茶の時間② 遠足 動物お別れ会 さつま芋掘り 親子運動会	お茶の時間② 遠足 動物お別れ会 さつま芋掘り 親子運動会	電車遠足 動物お別れ会 さつま芋掘り 親子運動会	そりすべり 新年お楽しみ会 生活発表会 園小交流会②	スキー神社祭 もちつき 新年お楽しみ会 生活発表会 クリスマス会 園小交流会③	そりすべり 豆まき 食育教室 未就園児交流会 お別れ会	修了式 ひなまつり会 未就園児交流会 お別れ会	入学式 生活科「がっこうだいすき」 1年生を迎える会	運動会 1年生を迎える会
① 発達の姿	<p><3期> 友達とのつながりを深めながら、遊びを充実させていく時期</p> <p><4期> 友達と共通の目的をもち、主体的に生活を進めていく時期</p> <p>[小学校] 友達や先生と関わりながら学校生活に慣れ、学ぶ意欲をもつ時期</p>								
② 活動例	<p>学力向上</p> <p>野菜の栽培・ウサギの飼育 ・当番活動をする ・親しみをもち世話をする ・成長を楽しみにする ・数・大きさ・形などに興味をもつ</p> <p>心づくり</p> <p>スポーツ公園遠足 ・小さい子と手をつないで長い距離を歩く ・交通ルールを守る</p> <p>健康づくり</p> <p>運動会 ・思い切り体を動かす気持ち良さを感じる ・友達と競い合ったり協力したりする ・いろいろな運動遊びに挑戦する 10月～午睡終了</p> <p>絵画</p> <p>クレパスや絵の具で経験したことを描く 仲間と協同して遊ぶ ・お店屋さん、お化け屋敷ごっこ ・積木遊び（基地づくり・迷路あそび など） ・砂、土、水で遊ぶ</p> <p>生活発表会</p> <p>話し合いの中で自分の思いを発言する ・自分で考えた言葉や動きを友達と表現する ・楽器に触れ、音色やリズムを楽しむ</p> <p>すこやかウイーク</p> <p>健康習慣を身につける （挨拶・早寝、早起き、朝ごはん 体を動かす、メディア接触コントロール）</p> <p>運動遊具で遊ぶ</p> <p>縄跳び、跳び箱、巧技台、クロスカントリースキー 集団ゲーム ・ドッジボール、鬼ごっこ など 冬まつり週間 ・雪国の自然にふれ、いろいろな雪遊びを楽しむ ・異年齢との交流を通し、思いやりの気持ちをもち</p> <p>カルタづくり</p> <p>文字に関心をもち 造形あそび ・紙版画 ・紙粘土</p> <p>修了式</p> <p>気持ちや考えを言葉にして言う ・友達と気持ちを合わせて話したり歌ったりする</p> <p>生活科</p> <p>全体を使って、楽しく活動する ・驚きや発見をもとに、主体的に学ぶ</p> <p>運動会</p> <p>開閉会式 集団行動ができる ・個人種目 自分の力を発揮する ・団体種目 協力しながら力を発揮する</p> <p>入学式</p> <p>小学生になつての喜びを味わい、自身を学校生活への期待をもつ 大きな声で挨拶をすることが出来る</p> <p>1年生を迎える会</p> <p>上級生からの歓迎で自信や意欲をもつ ・学校生活のリズムをつかむ ・自分の体のことを知る（発育測定）</p>								
③ 園・小の交流活動と連携	<p>園・小学校との交流会① （6月下旬） 自分や友達の入学する学校を知る。</p> <p>園・小学校との交流会② （10月下旬から11月上旬） 入学予定校で学校探検などをする ことにより、学校生活の様子を知り慣れや期待をもつ。</p> <p>園・小学校との交流会③ （12月上旬） 入学予定校での授業をミニ体験することにより、安心感や期待感を抱く。</p> <p>就学時健康診断（10月下旬から11月上旬）</p> <p>交流会②の打ち合わせ</p> <p>交流会③の打ち合わせ</p> <p>園小連絡会 ・入学前情報交換</p> <p>園小連絡会 ・入学後情報交換 ・授業参観</p> <p>移行学級（2月） ・小学生と一緒に学習することをとおして、学校生活に対する安心感と意欲をもつ。</p>								

①各期における幼児・児童の発達の姿

「発達の姿」の欄には、年長後半から小学校入学後までを3期に分けて、期待する幼児・児童の発達の姿を明記しています。発達の姿は、12年間で身に付けていく資質・能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえ、設定されています。

継続的な「発達の姿」を描くことにより、幼児期における遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されることを意識できるようになります。また、カリキュラムの柱立てや関わり・指導の具体的な視点が把握しやすくなり、こども園と小学校との接続が明確になります。

②資質・能力を意識した活動例

「活動例」の欄には、年長後半から小学校入学後に子ども園・小学校で行われる活動や学習を明記しています。その際、12年間で身に付けていく資質・能力の3区分（学力向上・心づくり・健康づくり）と関連付けて、各種活動を位置付けています。

このことにより、活動や学習を組織的・計画的に実施する中で、身に付けていく資質・能力を一層意識することができます。

③園・小交流活動と連携

「園・小の交流活動と連携」の欄には、交流活動と打ち合わせが位置付けられており、交流活動には、活動のねらいが示されています。交流活動は複数回実施され、幼児の安心感や期待感が高まるように工夫されています。また、職員間の打ち合わせ、反省会を位置付けることにより、幼児の発達や学びの様子を振り返り、交流活動の内容や環境構成について検討することができます。

(2) 園・小交流活動の実際

12月上旬に行われた年長児と1年生との交流活動のねらいは次のとおりです。

【活動名「模擬体験授業」年長児と1年生】

	ねらい
こども園 (年長児)	小学校生活や学習の様子を知り、安心感や期待感を抱く。
小学校 (1年生)	園児に小学校の学習を教えることで、学ぶ楽しさを伝える。

交流活動は、1年生が学習したことを、年長児に伝えたり、一緒に活動したりできる内容に

しました。その際、年長児の発達の特性や園での活動の様子を踏まえて、1つの活動を10分から15分程度とし、45分間で3つ実施しました。

1つ目は1年生が国語で学習した劇（大きなかぶ）を披露しました。年長児は掛け声をかけて参加し、物語の楽しさを味わいました。2つ目の音楽では、年長児が知っている歌を一緒に歌い、体を動かして表現遊びを体感しました。3つ目の体育では、年長児がすぐに参加できるように、簡単なルールの活動を一緒に行い、体を動かす心地よさを味わいました。

45分間を3つに区切り、声を出したり、体を動かしたりする場面を取り入れることで、年長児はそれぞれの活動に没頭し、充実感を味わう姿が見られました。



【年長児は掛け声をかけ、活動を楽しみました】

おわりに

幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続をめざして、小学校入学当初は、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手がかりに、学びの芽生えから自覚的な学びへと連続させることが大切です。その際、生活科を核として、楽しいことや好きなことに没頭する中で生じた驚きや発見を大切に、学ぶ意欲が高まるように活動を構成することが有効です。

県教育委員会では、地区別保幼小合同研修会を毎年実施しています。保幼小の教員が集まって情報交換ができる場です。開催時にはぜひ参加していただき、低学年指導やスタートカリキュラムの作成にお役立てください。

※参考文献：文部科学省、国立教育政策研究所教育課程研究センター「発達や学びをつなぐスタートカリキュラムスタートカリキュラム導入・実施の手引き」2018、学事出版



スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業

高等学校教育課

はじめに

文部科学省が指定する「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」は、先進的な科学技術、理科・数学教育を通じて生徒の科学的な能力や科学的思考力等を培うことにより、将来社会を牽引する国際的な科学技術人材を育成することを目指す取組です。

平成14年度から事業が開始され、令和3年度は全国218の高等学校等が指定を受けて、理数教育に重点を置くなどしたカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等に取り組んでいます。

新潟県内のSSH指定校

新潟県内では、新潟南、新発田、長岡、柏崎、高田高等学校の5校がSSHとして指定されています。各校が、それぞれ次のような研究題目を設定し、特色のある教育活動に取り組んでいます。

<新潟南高等学校>

「未来イノベーションを牽引する、科学技術系グローバル人材の育成プログラム」

<新発田高等学校>

「科学技術を基盤とした、新領域を創造・開拓する未来のリーダーの育成
～新発田高校から 新発想！新発見！新発信！～」

<長岡高等学校>

「『課題研究』を深化・推進するカリキュラムによって、高度な科学技術人材を育成する」

<柏崎高等学校>

「柏崎の地域資源を活用し、科学的リテラシーと科学的探究力を有し将来の科学技術イノベーションを担う人材の育成」

<高田高等学校>

「探究する高田～科学的探究による深い思

考力と国際交流による高い表現力の獲得、そして世界に向けた『第一義』の追求～」



【課題研究で、ALTと一緒に実験をしている様子】

令和3年度生徒研究発表会2校が入賞

全国のSSH指定校や指定経験のある学校が一堂に集い、各校の優れた研究を発表する機会として「スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会」が毎年開催されています。令和3年度は、第1部のポスター発表会が、8月4日、5日に神戸市において、全国224の学校が参加して開催されました。同発表会においては、高田高等学校の代表チームが奨励賞（全国6校のうちの1校）、長岡高等学校の代表チームが生徒投票賞（全国12校のうちの1校）を受賞しました。

各学校においても、課題研究発表会等が年間複数回開催されており、生徒の探究的な学びや活動が活発に行われています。



【代表チームが生徒研究発表会で発表している様子】

オンラインを活用した研修方法の工夫について

県立教育センター

はじめに

今年度、県立教育センターでは、研修・講座の実施にあたり、従来どおり受講者がセンターに集合して行う研修に加えて、オンラインを活用した新しい方法を取り入れてきました。

Zoom等のオンライン会議システムを利用し会場を分散して行う研修や、受講者が勤務校においてYouTube動画等を視聴して行うオンデマンド型の研修などです。

ここでは、研修のねらいに合わせた実施方法の工夫と、今後に取り組んでいくことについて紹介します。

新たな方法で実施した研修の紹介

1 GoogleMeetによるオンライン型研修（勤務校受講型）

〔教職6年次研修（高等学校）〕

GoogleMeetを利用して県立教育センターから講義を配信し、受講者は自分の勤務校においてリモートで受講しました。

この研修では、GoogleClassroomも利用しました。GoogleClassroomは、ネット上に「クラス」を作り、資料の配付や共有などが行える教育機関向けのwebサービスです。この「クラス」内に様々な部屋を作成し、受講者に入室してもらって研修を進めました。こうすることで、受講者同士がペアになって演習を行うことや、グループに分かれて協議や発表を行うことができます。また、研修会場に入室するような感覚で利用できるため、受講者は当日の日程に沿って部屋を移動しながら、スムーズに研修を進めることができました。

受講者からは「初めてのオンライン研修だったが、一人一人の発表を集中して聞くことができ、議論も円滑に進められた。」
「GoogleMeetの実践的な勉強になった。」

「今後は教師、生徒ともにGoogleClassroomに慣れる必要がある。」などの感想がありました。



【6年次研修GoogleClassroom画面】

2 Zoomによるオンライン型研修（分散会場型、勤務校受講型）

〔新任校長・園長研修（小・中・特・幼）〕

研修1日目は、県立教育センター会場から他3会場にZoomを使って講義を配信する方法で実施しました。画面共有による資料提示では、文字の大きさや色合いによっては「見にくかった。」との指摘を受けました。改善してまいります。

2日目は、Zoomを使って受講者の勤務校とセンターをつないで講義を配信し、その後ブレイクアウトルーム機能を使ってグループ協議を行いました。Wi-fiの回線状況の不安定さからZoomの接続が切れてしまう受講者もいましたが、再入室も問題なくでき、研修後のGoogle Formsによる「研修を振り返って」のアンケートについても、受講者にその場で入力・送信してもらうことで、紙への記入や郵送等の手間を省くことができました。受講者からは「Zoomを使っての協議でも対面型と同じように意見交流ができた。」「講義の途中に意見を聞かれたり、協議を挟んでもらったりすることで、双方向的な研修となった。」との感想をいただきました。



【県立教育センター会場の様子】



【Zoomをつないだ他会場の様子】

3 Zoomによるオンライン型研修（遠隔講義により受講者が実習を行った研修） 【初任者研修（高等学校）体験研修】

実習を伴う集合型の研修であっても、講師が研修会場に来場せずに行うことができました。会場正面に大型スクリーンをセットして、講師を大きく映し出せるようにし、細かな指示も受講者に届くようにしました。更に、会場の実習の様子が講師に伝わるよう、受講者の表情や手元を複数のiPadで撮影し送信しました。その際、タブレットの利点を生かし、研修スタッフがiPadを手に移動しながら撮影しました。

受講者からは「（このスタイルの研修であっても）講師の指導やアドバイスがしっかりと伝わりました。」などの声がありました。



【Zoomをつないだ講師をスクリーンに映し出して
実習を行う受講者の様子】

4. YouTubeを利用したオンデマンド型研修 （勤務校受講型） 【危機管理講座】

オンデマンド型の研修方法では、指定された期間内に研修動画を視聴し、レポート作成等の作業を行います。集合することなく自校で研修を受講できるため、移動による負担が少なく済みます。また、受講者の都合に合わせて日程を設定できる点もこの研修形態の良さです。

240校240名の校長、副校長、教頭が受講した「危機管理講座」では、受講者はそれぞれの勤務校において研修を受講しました。研修用動画は全てYouTubeで視聴する形態としたため、受講者からは、「繰り返し見ることができて良い。」「一時停止ができてありがたい。」など、オンデマンド型の良さを評価する声が多く寄せられました。

おわりに

ここで紹介したように、当センターではオンラインを活用した多様な研修方法を実践しています。勤務校で研修を受講できるようになることで、移動時間に係る負担は大きく減らすことができます。また、遠隔地にいる高名な講師から、オンラインで指導してもらうことができるようにもなりました。

一方で、オンライン会議システムならではの難しさがあります。発言できるのが1人に限られるため、つぶやきやあいづちなど細かな意思疎通が難しいことや、協同作業がやりにくいなどの弱点があります。

集合型、オンライン型など、それぞれの方法に長所と短所があります。教育センターでは、研修内容によってその方法を使い分けたり、それぞれの良さを生かした研修を工夫したりし、より良い研修の運営を目指していきます。

インフォメーション

● 県立近代美術館（長岡市）

美術鑑賞講座

「品川工の作品を見る—オモテとウラ、ヒナタとヒカゲ、マコトとウソ—」

柏崎出身の版画家・造形家、品川工（しながわたくみ 1908～2009）。視覚を遊んだちょっと不思議で親しみある作品を改めて見直し、身近な発想の中にある美術を楽しみます。

日時：2月5日（土）午後2時～3時30分

講師：松矢国憲（当館専門学芸員）

※要事前申込

美術鑑賞講座

「1920年代の美術」

大正から昭和へと元号が改まった1920年代は、関東大震災が一つの契機となり、日本の社会全体が変貌していった時代でもありました。一方欧米では第一次世界大戦が終結し、「ジャズ・エイジ」と呼ばれる享乐的な都市文化が花開いた時代を迎えます。当時の社会背景を重ね合わせながら、1920年代の国内外の作品をご紹介します。

日時：2月19日（土）午後2時～3時30分

講師：平石昌子（当館専門学芸員）

※要事前申込



高村真夫《倦怠》1921年

コレクション展第4期

〔展示室1〕 近代美術館の名品

小特集：生誕130年羽下修三

〔展示室2・3〕 1920年代の美術

○会期 開催中～3月21日（月・祝）

〔前期：～2月6日（日）、後期：2月8日（火）～〕

○会場 コレクション展示室

○観覧料 一般430円（340円）

高校・大学生200円（160円）

中学生以下無料

県立近代美術館

住所 長岡市千秋3丁目278-14

TEL 0258-28-4111

URL <https://kinbi.pref.niigata.lg.jp/>

● 県立万代島美術館（新潟市）

企画展「サンリオ展

～ ニッポンのカワイイ文化60年史～



© 2022 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. SP620156

ハローキティやマイメロディなど、これまでに450以上ものキャラクターを生み出してきたサンリオ。60年を超えるその歴史は今や世界の共通語ともいえる「カワイイ」文化の歴史そのものといっても過言ではありません。グッズや出版物、貴重な資料によって創業からの歩みをたどるとともに、時代を超えて愛され続ける数々のキャラクターにこめられた「サンリオの想い」をお届けする展覧会です。

○会期 開催中～4月10日（日）

○休館日 2月7日（月）、2月14日（月）、2月28日（月）、3月7日（月）、3月14日（月）

○開館時間 午前10時～午後6時
（観覧券の販売は午後5時30分まで）

○観覧料 一般1,600円（1,400円）
高校・大学生1,300円（1,100円）
中学生以下無料

県立万代島美術館

住所 新潟市中央区万代島5-1 朱鷺メッセ内
万代島ビル5階

TEL 025-290-6655

URL <https://banbi.pref.niigata.lg.jp/>

※（ ）内は有料20名以上の団体料金です。
※障害者手帳をお持ちの方は観覧料が免除になります。受付で御提示ください。


【お知らせ】

- ・マスクの着用に御協力をお願いします。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況により、開催内容に変更が生じる場合もございます。
- ・最新の情報は美術館ウェブサイト等で御確認ください。

※PDFファイルで御覧の方は、下線部(Webページアドレス)をクリックすると、直接該当Webページにジャンプしますので御活用ください。

※県ホームページからバックナンバーも御覧いただけます。

「新潟県 教育月報」で検索してください。

教育月報 

発行所 新潟県教育庁総務課
所在地 〒950-8570
新潟市中央区新光町4番地1
TEL 025-280-5587
FAX 025-285-3766
E-mail ngt500010@pref.niigata.lg.jp
URL

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/kyoiku/>

本紙に関する御意見がありましたら、お寄せください

<無断転載を禁ず>